

昭和46年刊行 前橋市史第1巻以後

—私家版 新編前橋市史資料編 原始古代編
(新しい前橋市史に向けて) —



開催期間 令和5年4月29日(土)から
9月 3日(日)まで

休館日 月・火(但しゴールデンウィーク期間中は連日開館します。)

開館時間 午前10時から午後4時まで

その他 関連事業として7回連続の企画展関連講座を開催します。
詳細はホームページ等でお知らせします。

番号	遺跡名	出土遺構	資料種類	器種	時期	剥片、石核×2	備考	所蔵
1	熊の穴 II (横儀遺跡群Ⅲ)		石器	1 接合資料 2 ナイフ形石器×9				
2	堀越甲真木B		石器	1 ナイフ形石器 2 挟入石器 3 二次加工された剥片				
3	頭無(柳久保遺跡群Ⅷ)		石器	1 細石刃×6 2 細石刃核連遺物 3 細石刃核 4 挣器 5 荒屋型彫器×3	旧石器時代			前橋市
4	鳥取福蔵寺 II		石器	1 細石刃×5 2 スキー状削片×2 3 細石核×5 4 荒屋型彫器×4 5 彫器				
5	小島田八日市		縄文土器	1 隆起線文土器×9				
6	徳丸仲田(1)		石器	1 有舌尖頭器×2 2 ポイント×4	縄文時代草創期		レプリカ	群馬県
7	頭無(柳久保遺跡群Ⅷ)	包含層	縄文土器	1 隆起線文土器×9				
8	堀越中道 (大胡西北遺跡群)	J3号住居 土壤	縄文土器	1 深鉢形土器×7	縄文時代早期			
9	堀越立木(C地点)	C地点 土壤	縄文土器	1 深鉢形土器×2	縄文時代前期前葉			
10	天神E		縄文土器	1 深鉢形土器×2	縄文時代中期前葉			前橋市
11	西小路	11号住居	縄文土器	1 深鉢形土器×2				
12	五代伊勢宮VI	土壤	縄文土器	1 深鉢形土器 2 異形脚台付土器 3 深鉢形土器×2	縄文時代中期中葉			
13	上ノ山	12号住居 29号住居 一括資料	縄文土器	1 把手付深鉢形土器 2 深鉢形土器×2	縄文時代中期後葉			
14	大道(横儀遺跡群 II)	32号住居 35号住居	土偶	1 10点 2 10点	縄文時代後期			前橋市
15	上細井中西部遺跡群		一括資料	1 注口土器×2				
16	青柳宿上	半円形の塗地	縄文土器	2 浅鉢形土器				群馬県
17	小島田八日市古墳	追葬主体部	銅鏡 鉄製品	1 弥生中期壺×3 2 弥生中期鏡 3 鎏 4 剣	弥生時代中期中葉 古墳時代前期			前橋市

18	荒砥荒子	居館の堀	土師器	1 坯 × 4 2 塹 3 高坏 × 2 4 坎 × 3	古墳時代中期	群馬県
19	二之宮ハ王子古墳	玄室	鉄製品	1 鞘尻金具 2 鋼 3 鞘尻金具 4 足金具 5 足金具 × 2 6 鐵鎌 × 5	古墳時代後期	銀象嵌あり 銀象嵌あり 前橋市
20	広瀬木ノ宮	W-1号溝 W-2号溝	須恵器 土師器 土師器 須恵器 土師器 須恵器 須恵器	1 罩 2 蓋 × 2 3 坯 × 4 4 坯 × 3 5 坯 6 盆 7 坯	古墳時代末(7世紀後半) 古墳時代末(7～8世紀)	
21	二之宮洗橋	河川跡			奈良平安時代(8～9世紀)	墨書き土器 芳郷 墨書き土器 鄉 墨書き土器 鄉 墨書き土器 舟 墨書き土器 大掾 墨書き土器 鄉 墨書き土器 廚
22	上西原		基壇建物 61号住居 基壇建物 基壇建物 82号住居 北溝-2 31号住居 1号住居 須恵器窯址 今井道上 今井道上・道下	瓦 瓦 塑像 塑像 奈良三彩 土師器 土師器 須恵器 須恵器 写真パネル等 写真パネル等	1 平瓦 × 4 2 平瓦 3 鼻 4 耳 5 小形短頸壺 6 高台付壺 1 坯 1 淨瓶 1 広口壺 2 短頸壺 × 2	文字瓦 势 奈良平安時代(8～9世紀) 奈良時代(8世紀) 平安時代(9世紀) 奈良時代(8世紀) 平安時代(8～9世紀) 平安時代(9世紀～11世 前橋市
23	茂木山神Ⅱ					群馬県
24	天神風呂「地点					
25	ハケ峰生産址遺構(上大屋・越地区遺跡群)					
26	今井道上					
27	今井道上・道下					
28	元総社小学校校庭 (推定上野国府 H25)	21aトレシチ (古代の溝)	黒色土器 須恵器	1 蓋 2 盤 3 坎 × 2 4 高台付壺 5 盤	奈良時代(8世紀)	前橋市

29	元總社蒼海遺跡群(137)	前橋市	26号住居	銅鏡 灰釉陶器	1 八稜鏡 2 碗		
			土壙	銅鏡 鐵製品 鐵製品 鐵製品	3 五花鏡 4 素文鏡 5 鈴 6 鐸×2 7 雁又鏡×2	平安時代(10世紀後半)	
			22号住居	灰釉陶器 ろくろ成形 土師器	8 碗 9 高台付き壺×2		内面に法輪状のミガキ
			30	元總社蒼海遺跡群(143)	白磁 1 壺	平安時代(11世紀)	墨書き 土器 梅
			31	元總社蒼海遺跡群(25)	青白磁 1 青白磁渦文瓶	室町時代(13~14世紀)	梅瓶
			32	二之宮宮下東	白磁類 1 40点 青磁類 2 34点	鎌倉~室町時代 (12~13世紀)	船載陶磁器 群馬県

柏川歴史民俗資料館令和 5 年春期企画展
昭和 46 年刊行 前橋市史第一巻以後
—私家版 新編 前橋市史資料編原始古代編
(新しい前橋市史に向けて) —

開催にあたって

前橋市史は群馬県下でも早く計画され、刊行された当時としては画期的な市町村史の一つです。その内、第一巻は昭和 46 年(1971)に刊行されました。以来、52 年が経過したことになります。

この前橋市史第一巻は、原始古代編として刊行され、以来、群馬県の原始古代を知る上での必読書とされてきました。しかし、ここ数十年の歴史研究、特に埋蔵文化財の発掘調査による出土資料の増加はすさまじく、それに伴い考古学研究の進捗も、隔世の感が否めません。前橋市史編纂当時とは彼我の差が生じています。また、平成 16 年(2004)以降の町村合併による市域の拡大は、さらに多くの新しい資料の蓄積を生むこととなりました。

今回の企画展は、以上の状況を踏まえ、前橋市史第一巻以降に本市域で調査された遺跡およびその出土資料の中から、担当者の管見に触れた資料を中心に、評価の定まっていないものも交え、一堂に集め公開展示することしました。しかし、これは、ほんの一部でしかあり

ません。新しい前橋市史編纂にはさらに多くの資料の収集が必要となります。

なお、今回の企画展開催期間中、それぞれの遺跡、遺物の意義など講師を迎える連続講座として実施し、あわせて広く市民の皆さんにこれらの資料の重要性を周知しようとするものです。

今回の展示にあたり、群馬県立歴史博物館、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団には資料調査や展示資料の借用など多大なるご協力をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

1. 前橋市史 第一巻を読む

前橋市史は第一巻が昭和46年(1971)2月に刊行されたのをはじめとして第二巻48年(1973)8月、第三巻50年(1975)10月、第四巻53年(1978)12月、第五巻59年(1984)2月、第六巻60年(1985)2月、第七巻60年12月と順次刊行されました。第一巻から第五巻が本編、第六、七巻が資料編となっています。残念ながら、
資料編には金石文を除いて考古資料は載録されていません。全体の構成は通史として、前橋市の歴史を記述しています。

前橋市史第一巻は、刊行当時から長く、群馬県の考古学研究者の必読の書とされてきました。特に、それまで群馬県の考古研究を牽引し

てきた群馬大学考古学研究室「尾崎喜左雄博士の市史」として注目されました。内容は、自然、古代上、古代下、中世の四編構成で、それぞれ三章から四章の章立てとなっています。第四編の中世は十章に章立てられ、記述項目が多岐にわたっています。

原始古代については古代の上下 2 編に分けられ、古墳時代までを古代上、それ以降を古代下とし、上野国府に関する諸問題に多くを割り当てています。

以下、第一巻の内容と展示資料とを比較、概観していきましょう。

2. 前橋の旧石器時代

第二編古代上 序章「二. 旧石器期の前橋」という項目があります。

およそ 1 ページが割かれ、岩宿遺跡、勢多郡宮城村（現前橋市苗ヶ島町）の棚形遺跡、勢多郡大胡町茂木（現前橋市茂木町）の三ツ屋跡が挙げられ、当時の段階では、前橋市域でも旧石器が、今後、発見される可能性があるという示唆でとどめられています。

令和 5 年（2023）現在、前橋市域で検出された旧石器時代の遺跡は 35ヶ所があげられ、多くの出土資料が検出されています。

今回の展示では、①熊の穴Ⅱ遺跡（横俵遺跡群Ⅲ）②堀越甲真木

B遺跡 ③頭無遺跡（柳久保遺跡群VIII）④鳥取福蔵寺II遺跡の合計
4遺跡の出土品を展示しています。

3. 前橋の縄文時代

第二編古代上 序章「三、縄文期の前橋」という項目で、前橋市域の縄文時代を概観しています。そして、第一章第一節「縄文土器」で当時市内には、縄文時代早期の遺跡5ヶ所、同前期の遺跡が22ヶ所、中期の遺跡が59ヶ所、後期の遺跡が53ヶ所、晩期の遺跡が6ヶ所、縄文時代の遺跡として合計142ヶ所の遺跡があげられています。また、当時群馬大学尾崎研究室が発掘調査に携った4ヶ所の遺跡の短報が載せられています。

今回展示した資料は、縄文時代草創期の遺跡として⑤小島田八日市遺跡⑥徳丸仲田遺跡、縄文時代早期の遺跡例としては、⑦頭無遺跡、縄文時代前期の遺跡としては⑧中道遺跡、縄文時代中期の遺跡としては⑨並木C遺跡⑩天神E遺跡⑪西小路遺跡⑫五代伊勢宮遺跡⑬上ノ山遺跡の出土資料を展示しています。また、縄文時代後期の⑭大道遺跡（横俵遺跡群II）の出土資料を展示しています。

前橋の縄文時代の年代的な範囲は広がり、東北、東関東、長野・新潟など多方面からの影響を受けて成立していることがわかります。

常設展示でも、前橋市の縄文各時期の展示を行っています。

4. 前橋の弥生時代

第二編古代上第一章「第二節 弥生土器」という項目で概観し、市内で調査された2遺跡を紹介しています。特に荒口前原遺跡（荒口町）の出土品は、以後、群馬県の弥生時代中期後半を代表する一括資料として広く周知されることになります。今回はこの荒口前原遺跡出土資料より一段階古い、弥生時代中期中葉の資料で、⑯上細井中西部遺跡群⑯青柳宿上遺跡出土の資料を展示しています。特に、上細井中西部遺跡群では同時期の竪穴住居が赤城山南麓地域で初めて検出され、注目されます。

5. 前橋の古墳時代

第二編古代上 第一章「第三節 土師器の初現」「第四節土師器と生活」という項目で、古墳時代前期の土器や古墳時代の土器である土師器を出土した遺跡を紹介しています。また、古墳については、第二章総てを費やして、古墳の紹介、古墳群、年代観などが示されています。

今回に展示では、赤城山地域の末端に位置する前期古墳の⑰小島田八日市古墳の出土資料、古墳時代中期の豪族居館と考えられる⑱

荒子遺跡の出土資料、古墳時代後期の角閃石安山岩を用いた石室を採用した⑯二之宮八王子古墳から出土した銀象嵌が施された鉄製武具などを紹介しています。

5. 前橋の奈良・平安時代

第三編古代下を総て奈良・平安時代の諸問題に充てています。文献史学から奈良平安時代の国司による政治や国府、国庁の位置、さらには、郡郷の在り方、神や仏との関わりなど論が進められています。国府、国庁の位置については、現在も、調査が進行中です。少しずつ、解明に向けて進んでいます。また、郡衙、郡庁についても、群馬県内では新田郡衙や佐位郡衙が相次いで明らかになり、前橋市域でもその発見が待たれます。

今回の展示では、⑰広瀬木ノ宮遺跡⑱上西原遺跡⑲今井道上遺跡で検出された、堀で方形に区画された中に掘立柱建物を配した遺構から出土した遺物や⑳荒砥洗橋遺跡から出土した勢多郡の一郷である芳賀郷の墨書がある土器、㉑今井道上道下遺跡では、中世の道であることが明らかになった「あづま道」の調査成果を展示しています。そして、推定上野国府関連調査遺跡の㉒元総社小学校校庭遺跡調査資料を展示しています。また、8世紀の生産遺構である㉓八ヶ峯須恵

器窯出土品、仏具として珍しい淨瓶が出土した②天神風呂遺跡F地
点、「大兒」(大胡?)の墨書が確認された③山神Ⅱ遺跡の資料を公開
しています。

6. 前橋の中世

前橋市史第一巻の最後の第四編は中世で、平安末から戦国期まで
をあつかっているため、内容は多岐にわたっています。

今回の展示では、⑩元総社青海遺跡群(143)出土の群馬県最古の
舶載陶磁器(10世紀)や⑨元総社蒼海遺跡群(137)から出土した墓
壙出土品(11世紀)⑪元総社蒼海遺跡群(25)出土の舶載陶磁器「青
白磁梅瓶」(13~14世紀)、そして、二之宮赤城神社の南に隣接する
⑫二之宮宮下東遺跡出土の舶載陶磁器群(12~13世紀)、などを展示
しています。

